

【ネジやネジ部品の製図を書こう】

JIS B0002-1 ではネジやネジ部品の図を表す方法を規定しています。

製品の技術文書などでは図1のようなネジを書くことが必要になる場合があります。

図1のようなネジの実形図示は、絶対必要な場合にだけ使用し、つる巻き線は、可能な限り図2のように直線で表すのが良となります。

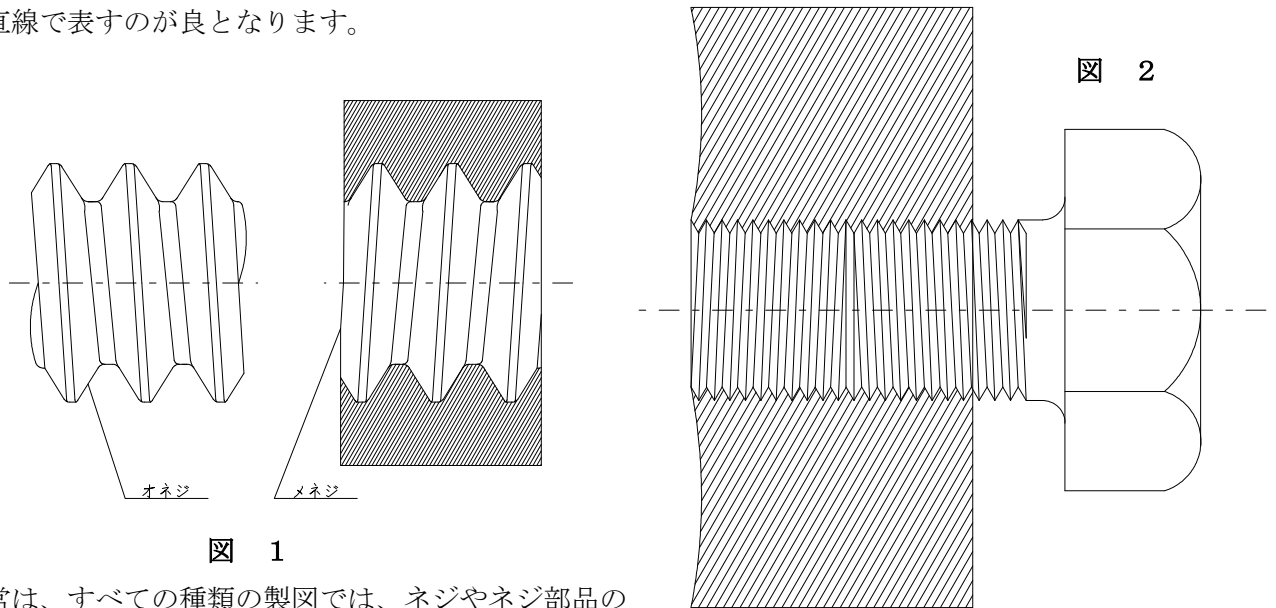
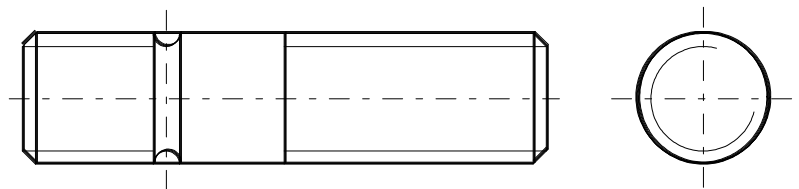


図 1

通常は、すべての種類の製図では、ネジやネジ部品の

図示は、慣例によって下図に示すように単純にします。側面から見た図や、その断面図で見える状態のネジはネジの山の頂を太い実線で示し、ネジの谷底を細い実線で示します。ネジの山の頂と谷底とを表す線の間隔は、ネジ山の高さとできるだけ等しくするのが良です。但し、この線の間隙間はいかなる場合にも、次のいずれか大きいほうの値以上とします。

- 太い線の太さの2倍
- 0.7 mm

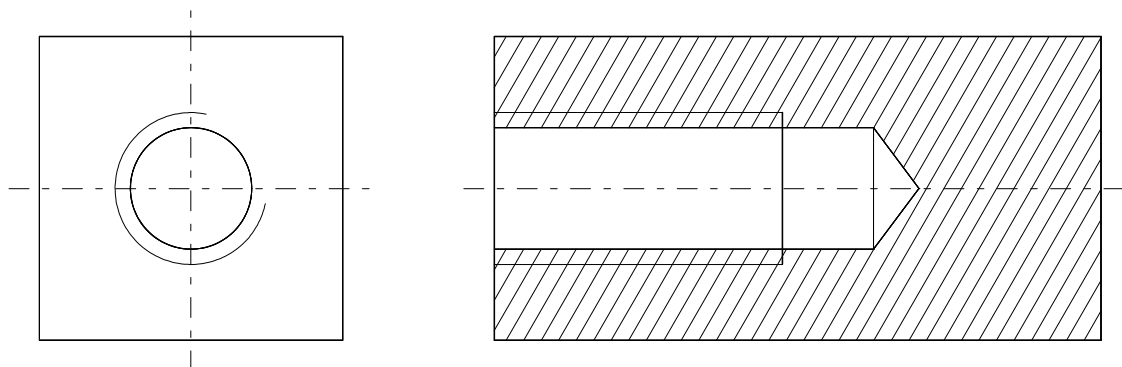


CAD では

- 呼び径 8 mm 以上のネジに対しては、一般に 1.5 mm の間隔が受け入れられています。
- 呼び径 6 mm 以下のネジに対しては、簡略図示が推奨されています。

隠れたネジを示すことが必要な場所では山の頂・谷底は下図に示すように細い破線で表します。

断面図に示すネジ部品でのハッチングは、ネジ山の頂を示す線まで延ばして描きます。



ネジ部長さの境界は

- 見える場合には、境界を示す。図示には太い破線を用います。
- 隠れている場合に、境界を示してもよく、図示には細い破線を用います。